



加地薬局かわら版

No.207



お薬の正しいのみ方

安全にお薬の効果を十分に得るためには、指示された量、回数、時間を守り、正しく服用する必要があります。

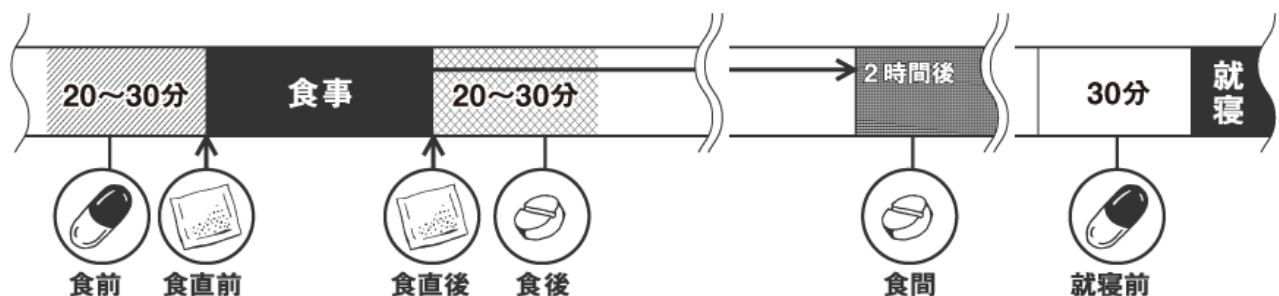


のむ時間について

主なのみ方は次の通りです。



用 法	の み 方
食 前	食事の約30分前
食 後	食事の後30分以内
食 間	食事と食事との間(食後2時間くらい)
食 直 前	食事の直前
寝 る 前	寝る直前または30～60分前
頓服(とんぷく)	その症状がでたとき(発熱時や頭痛時など)



のみ忘れたとき

基本的な対応としては、次の服用時間までに時間があいていれば、気付いた時点でのんでください。

次の服用時間が迫っているときは、1回分とはばし、次回分の薬をのんでください。

一度に2回分をのんではいけません。お薬の副作用が出ることが考えられます。

糖尿病の薬など、対応が異なるお薬もあります。不明な点は薬剤師におたずね下さい。



お薬は水で飲みましょう

原則として、コップ1杯程度(約150mL)の水、またはぬるま湯でのみましょう。

水以外のもので飲むと、お薬の効果に影響が出るものもあります。



自分で勝手に薬を中止したり量を変えたりしないでください

自分では治ったと思って、まだ治りきっていないことがあります。

急にお薬を中断すると、症状が悪化することもあります。

自分で勝手に薬を中止したり、量を減らしたりせず、不安なときは、必ず医師、薬剤師に相談しましょう。



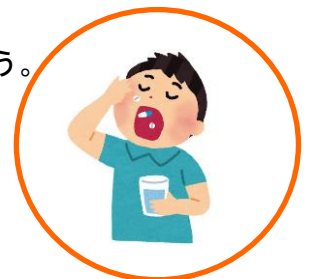
自分のお薬を他の人にあげたり、他の人のお薬をもらってのまないでください

病院で処方されたお薬は、処方された患者さんご自身のものです。

医師は患者さんの症状や体質を診断した上で、お薬を処方しています。

「症状が似ているから」「よく効いたから」といって、ご家族や友人に渡すことはやめてください。

効果が出ないばかりか、思わぬ副作用が出ることがあります。





お薬は正しく保管しましょう

お薬は一般的に、「光」と「湿度」に弱いといわれています。

特に指示がないものは、直射日光のあたらない、涼しい乾燥したところに保管しましょう。

冷蔵庫に保管することが必要なお薬もあります。

かといって、凍らせてしまうとお薬の効果がなくなってしまうものもあります。

保管方法にはくれぐれも注意してください。

お薬は、患者さまにとって、健康と命を支えている大切なものです。

ご自分のお薬のことをよく知っておきましょう。

お薬についてわからないことがありましたら、医師や薬剤師にご相談下さい。



状況別の注意点と影響

【飲酒量が多い方】

お酒を飲み続けていると、肝臓の代謝機能が高まり、お薬は効きにくくなります。ただし、アルコールの摂取しすぎで肝臓の機能が低下している場合、お薬の効果が強くなる場合があります。

【妊娠中・授乳中の方】

母体を通じて、お子さまの成長にお薬が影響をおよぼす可能性が。妊娠中の場合は、妊娠週数によって、その影響の度合いは変化所以说われていますので注意が必要です。

【お子さま】

体が未発達のお子さまは、お薬を分解したり排泄したりする能力が弱いため、一般的にお薬の影響を受けやすくなります。

【喫煙者】

喫煙は酵素を活性化し、より多くのお薬が代謝されます。そのため、お薬によっては効きにくい場合があります。また、禁煙すると薬が効きやすくなる場合があります。

【副作用や薬物アレルギーの経験がある方】

同じ成分のお薬や、似たような成分のお薬などを使用すると、副作用やアレルギーを起こすリスクが高まる場合があります。

【治療中の疾患がある方、過去に疾患があった方】

肝臓や腎臓の疾患をお持ちの方は代謝能力が低下しているため、お薬の効きめが変わることがあります。他にも注意の必要な疾患があります。

【車やバイクの運転、危険な場所で作業をする方】

脳などの中枢神経に作用する向精神薬や眠くなる作用を持つかぜ薬など、使用を控えたほうがよいお薬があります。

【ご年配の方】

肝臓や腎臓の働きが低下し、長期間、複数のお薬を使用していることも多いので、お薬が体内にとどまる時間が長くなり、副作用のリスクが高まっています。

※他にも注意が必要なこともあります。

医師や薬剤師からの質問にしっかりお答えいただくことで、リスクの軽減につながります。

